

トレーニングレポートの書き方

1. トレーシングレポートの種類

報告型と報告+提案型との2種類がある。

- (1) **報告型**：得られた情報をもとに伝える必要のあることを報告する。
- (2) **報告+提案型**：気づいた問題点について薬剤師の視点から提案を行う。

2. どんなことを書くか？

疑義照会ほど緊急性はないものの、患者の治療に役立つ情報を医師と共有する。服薬指導の中で患者に「少し様子を見て、続くようであれば次回の受診の際に先生に相談してみてください」と話すような内容をレポートにする。

3. 書き方

- (1) ひと目で伝える構成（箇条書き、項目分け）
- (2) 空欄は「×」か「該当なし」と書く
- (3) 医師が読んで判断しやすいような情報（具体的かつ理由を含めて、評価や提案の根拠として資料（文献など）があるとよりよい。）
- (4) 具体的な情報
 - ①誰から得た情報なのか（患者あるいは家族からの訴えなのか、薬剤師が見立てた情報なのか）
 - ②いつ、どのような場合に得た情報なのか
 - ③その際にどのような対応をしたのか
 - ④情報を提供した理由と提案（なぜそう考えたか、なぜそう対応したか、どのようにしたらよいか）
 - ⑤薬剤師の視点でこういう見方もある、こういう点を患者が心配されているので報告するなど謙虚な表現を用いる。
 - ⑥患者目線での記載
「患者から～の希望、～を心配されていて、～が飲みにくいとのことで」

(参考) 分かりやすく相手に伝える手法：SBAR

- ・状況 Situation：患者に何が起きているか
- ・背景 Background：臨床的な背景や状態は何か
- ・評価 Assessment：問題は何（と考える）か
- ・提案 Recommendation：修正するにはどうすればよいか

<報告内容>

受け手が有意義だと感じる情報（医師が把握しにくいと思われる情報）

- ①服薬アドヒアランスに関する情報（飲みにくい剤型・用法、仕事や生活サイクルと服薬の不一致など）
- ②併用薬剤などの情報（OTC、健康食品、サプリメントなど）
- ③複数病院受診に関する情報（重複処方、処方カスケードなど）
- ④長期処方薬への見直し（NSAIDs、胃薬、Mg 製剤など緩下剤、甘草含有漢方薬、睡眠導入剤など）
- ⑤患者の訴え・様子（アレルギーや副作用と思われる症状など）に関する情報
- ⑥慎重なモニタリングが必要な薬剤に関する情報
- ⑦患者家族・介護者などからの情報
- ⑧生活様式と薬剤の不具合

<提案内容>

- ①用法変更、剤型変更、粉碎・脱カプセル、一包化、合剤など
- ②薬剤量の調整（増量・減量・中止）
- ③副作用の確認・対応依頼
- ④検査依頼
- ⑤TDM 依頼
- ⑥患者への情報提供

4. 注意したい書き方

- (1) 文章が多い、長い、回りくどい、読みにくい、伝えたいポイントがわかりにくい
- (2) 情報の不足
 - ①「残薬調整しました。」
⇒「(理由) で (何を) (何日分) 調整しました。」
 - ②「~のため、〇〇の変更（減量）をご検討ください。」
⇒「~のため、〇〇を●●などに変更（△mg への減量）をご検討ください。
（必要に応じて文献など添付）」
- (3) 提案でなく変更・中止など決めつけた表現・指示
 - ①「—してください。」「—するべきです。」
⇒「~のように変更するのはいかがでしょうか？」
 - ②「次回診察時にご確認ください。」

* トレーシングレポートを送って終わりではなく、薬剤師としてその判断や提案に責任を持ち、その後の患者の治療に継続して支援にあたるのが重要である。